

言語学者 H・ホッジさん

〈随時掲載〉

今こそローカルリズムを



経済のグローバル化を乗り切るには、地域が活性化されなければならない」と語るホッジさん。「世界で起

きている多くの危機を乗り越えるには、地域が活性化されなければならない」と語るホッジさん。1980年代、ヒマラヤ山脈西端にあるラダック地

方、近代化に染まらない村の暮らしをまとめた著書「ラダック 懐かしい未来」で注目され、現在はグローバル化に対する概念として「ローカルリズム」を提唱する。

「グローバル化が進めば、文化も人も単一化する。資源が無駄に使われ、環境も汚染される」と力を込めて語る。つまり、危機を打破するには経済を小さい単位にしていくことだと

「農家自らが食べ物を作るファーマーズマーケットのように生産者と消費者が近づけば、人との絆が強くなる」。個人の意識改革も大事だが、「それに頼りすぎると失敗する」とも話し、ローカルリズムの推進には国や自治体の積極的な関与が不可欠とする。

「人は知らず知らずのうち、最新の流行を追いかけるべきかを考えると、それは、税や補助金の方向性がグローバル化を進める方向に向かっていたからです」

を「輸入すべき物、輸出すべき物を見極め、最適な関税を決めること」とする。金融機関の在り方を変えていく必要もあるという。「地方の中小企業や生産農家を支える地方銀行、信用金庫をもっと優遇すべきだ。小規模なビジネスを応援することで多くの雇用が生まれる。労働者は通勤に時間を要さないで、エネルギー消費も効率化するだろう」と予言する。

監督を務めた映画「幸せの経済学」が5月に東京で公開予定。グローバル化のシヨンの問題点を指摘し、世界各国の地域経済の成功例を紹介しながら、思いを同じにする社会活動家や学者たちの声をまとめた。「世界をリードする日本人の意識が変わることを願っている」と静かに語った。

調人聞

地震に
続い

あれから1カ月の夜のNHKテレビ番組。アナ、福島県の佐藤知く場面があった。アナ「知事、ました」。たぶお気持ち」と